

アール・アール

～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2016年 夏秋合併号
第87号

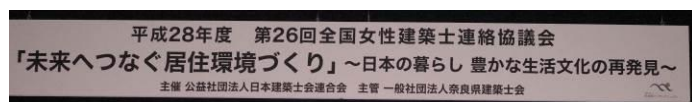
第26回 全建女（奈良）記念誌



■	目次		1 ページ
■	第 26 回全建女（奈良）の記念誌発刊にあたって	女性委員長 本保 万貴子	2 ページ
■	準備部会		
	・会場準備	山本 規子	
	・会 計	庄田 尚代	3 ページ
	・Tシャツのデザイン	野村 厚子	
	・備品調達	藤山 久仁子	4 ページ
	・22日大交流会を終えて 懇親会班	上田 壽子	
	・救護班から	西尾 弘江	5 ページ
	・記録班から	栗原 昭子	
	・大人の修学旅行	相河 真弓	6 ページ
	・委員長会議に参加して	杉田 数代	
	・基調講演報告	岩城 由里子	7 ページ
	・パネルディスカッションに参加して	岡田 伸子	8 ページ
■	和室に関するアンケート調査結果		9 ページ～15 ページ
■	分科会		
	・A分科会「防災への取組」		
	・B分科会「エネルギーとくらし」	武市 啓子	16 ページ
	・C分科会「歴史的建造物と建物再生」	中西 佳奈	
	・D分科会「環境共生住宅～住み継ぐ～」	前田 晴子	17 ページ
	・E分科会「環境まちづくり」	平島 朋子	
	・F分科会「子どもと住環境」	寺岡 春恵	18 ページ
	・G分科会「高齢社会と福祉住宅」	石黒 國子	19 ページ
■	大人の修学旅行		
	・1 コース 「旧平城山街道散策」	青木 順子	19 ページ
	・2 コース 「奈良公園散策」	中辻 千重	
	・3 コース 「奈良町散策」	安田 千鶴子	20 ページ
	・4-1 コース「美術館への旅」	奥 宏美	
	・4-2 コース「美術館への旅」	安井 ひとみ	21 ページ
	・6 コース 「庭園巡り」	江木 博子	
	・7 コース 「宗教都市とランドスケープ」	渡邊 有佳子	22 ページ
	・9 コース 「斑鳩の里めぐり」	山下 宣子	
	・10 コース 「片桐石州と天平の甍」	梶谷 治美	23 ページ
■	全建女（奈良）思い出の写真集		24 ページ～25 ページ
■	今後の事業予定・後記		26 ページ

第26回全建女（奈良）の記念誌発刊にあたって
女性委員長 本保 万貴子

暑いアツ〜イ猛暑が連日続く中、平成28年度第26回全国女性建築士連絡協議会（奈良）が、平成28年7月22日（金）～23日（土）の2日間開催され、大成功で終わることができました。これは、全建女準備部会員の皆様、早朝から会場設営をお手伝いいただいた支部の方々等、多くの皆様のご協力とご支援のお蔭です。本当にありがとうございました。



全建女（奈良）開催には、理事の方々、近建女の皆様、そして連合会女性委員会など、多くの方から激励をいただきました。昨年の春には、何度も開催断念の言葉が脳裏をかすめ、そのたびに、誰のためか何のためかを思い出させ、揺らぐなと声を掛けてくれて、私のボヤキに耐えてくれた仲間と、日本建築士会連合会の永井前女性委員長にお礼を申し上げます。

さて、全建女（奈良）を記録し伝えるために、女性委員会の季刊誌である本誌「フープ」夏・秋号の合併号を記念誌として発刊することにしました。当初、スタッフとして集まった会員14名により全建女準備部会を立ち上げ、記録、講演、会場、見学、交流班に担当分けしました。昨年6月15日の第1回全建女準備部会から仕事や家庭を調整しながら集まり、部会は15回にもなりました。徐々に増えた部会員も当日には27名となりました。それぞれが担当した役割について記事を寄せています。

また、この2年間、日本建築士会連合会女性委員を務めさせていただき、この全建女（奈良）を最後に、大阪府士会の石貫さんに引き継ぎました。連合会女性委員会では貴重な体験と新たな視点を得ることができ、全国に友人も増えました。10年後には再び、奈良で連合会女性委員を担うこととなりますが、その時、この有意義な全建女が続いていて、奈良での全建女が良い経験として役立てば嬉しいです。いろいろとご協力ありがとうございました。

なお、奈良士会の女性委員長は、まだ継続中ですので、ご意見、ご協力を引き続きお願いします。



都道府県別参加者数

北海道	5	愛知	8	徳島	5
青森	2	岐阜	4	香川	5
岩手	2	三重	9	愛媛	5
宮城	8	富山	3	高知	6
秋田	3	石川	4	福岡	3
山形	9	福井	2	佐賀	2
福島	9	滋賀	5	長崎	2
茨城	11	京都	10	熊本	4
栃木	6	大阪	11	大分	2
群馬	14	兵庫	12	宮崎	7
埼玉	9	奈良	35	鹿児島	7
千葉	8	和歌山	6	沖縄	1
東京	14	鳥取	5	連合会	13
神奈川	11	島根	4	講師来賓他	13
山梨	11	岡山	9	会員外	2
長野	15	広島	8	学生	7
新潟	9	山口	7	合計	372

交流会		分科会		大人の修学旅行	
一般	183	A	40	1コース	20
連合会	8	B	39	2コース	21
来賓等	11	C	68	3コース	21
スタッフ	14	D	28	4-1コース	22
合計	216	E	30	4-2コース	22
		F	28	6コース	21
		G	55	7コース	14
		H	32	9コース	21
		合計	320	10コース	22
				合計	184

会場準備

山本 規子

今回の全建女(奈良)は、一言でいうと、様々なマイナス要因を、みんなの力でプラスに変えることができた大会であったと考えます。



分けざるを得なかった会場も、1日目の奈良女子大学では、アカデミックな雰囲気の中に、有効活用されている文化財「佐保会館」を使用することができました。パネルディスカッションには在学生に参加していただいたことで、世代の巾も広がり、学生さんたちの注目をさらに集めることになったと思います。



2日目の春日野国際フォーラム薨では、本館と別館が遠いといった不利は、渡り廊下からの伸びやかな景色と丁寧な案内が、却って印象を良くしてくれました。分科会の会場準備に1時間しかない中で、余裕すら感じることはできたのは、皆様の個々の力が結集して目標に向かった時の、瞬発力をいつも見てきたからでしょうか。

個人的には、反省点が沢山ありましたので、次回?のために書き残しておかなければと思っています。



会計

庄田 尚代

今は只々ほっとしています。

今回初めて参加させていただく全建女(奈良)で、会計を担当させていただきました。といっても委員長が作成してくださった予算を執行するという仕事だったのですが、全国の女性建築士や建築に関連のある職種の方々が全国から集合し、会議を開くというものなのでその参加費、準備費といったかなりの金額になります。家計簿をつけることもない私にとって最も苦手な仕事でしたが、皆様の奈良大会への期待や思

い入れがたくさん詰まっているということを念頭に置いて、仕事をするように心がけました。

全国の士会から振り込んで頂いた参加費は、各人のエキスカージョンの選択コースや懇親会の出欠等により異なるため、その取り扱いはとても難しく苦勞しました。ただ最初に心配された大きな赤字も出ることなく、無事にこのイベントが終わり本当に良かったと思います。

改めて奈良県建築士会女性委員会の団結力と行動力を痛感しています。補助を頂いた近畿建築士会協議会、ご協力いただいた支部の方々ありがとうございました。



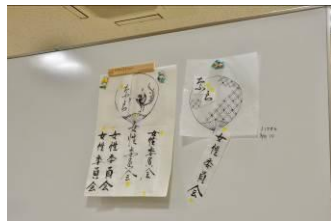
Tシャツのデザイン

野村 厚子

全建女(奈良)が盛会のうちに終了し、それに参加できたことをうれしく思います。

ふりかえれば、何もわからず、更には途中からの参加ということで、お手伝いできるようなことはあるのだろうかと思いながら準備部会に回を重ねていました。それでも回を重ねて参加していく中、大会の準備も本格的に進んで行き、実行委員のユニフォームの件が皆さんから宿題として投げ渡されました。「これなら私にも考えられるかも」と思い「挑戦？」を試みることにしました。大会のメインテーマや奈良の女性委員会のテーマなどをイメージしたり、『奈良ならでは』をあれこれ探し考えを巡らせている時は結構充実したひとときでした。

「うちわの絵板」を思いついたのは、「奈良うちわ」という伝統工芸もありましたが、会員のYKKAPさんよりうちわの提供があるという話が最大のヒントになりました。



また、真夏・猛暑という開催日程のこともあり、うちわは風を感じられるし話の中のワードを参考に「絵や、文字／なら」を使ってデザインは出来ると思いました。おかげさまで部会の方は広い人脈の方々ばかりで、図案は何とか出来ました。

それ以降、実際の製品になるまでには藤山さんにご尽力頂き、色、デザインの印刷具合、素材と、本当に素敵なTシャツが出来上がりました。



事実、大会開催中にもシックの中にも品良く、私たち側はもちろんですが、参加された全国の方々にもよく目に入り役に立ったのではないでしようか。更には、写真撮影や手に入れるにはどうしたらとか、買えますか？との声を頂いたり、うれしい場面が沢山ありました。実行委員会の皆さんの最大なご尽力により盛会裏に終了とのこと、また、それにささやかですが気配を残せたことをうれしく思います。

備品調達

藤山 久仁子

あの暑さの中、体力的にも精神的にも燃え尽きた感のある現在ですが、皆さん本当にお疲れ様でした。

今回の大会での備品準備は、まず約350人と予定されていた参加者の名札作りから始まりました。

全体会・分科会・懇親会・エキスカッションの分類を1枚の名札でどのように表現するか、皆さんの意見を聞きながらの作業でしたが、ここに私たちの未来の仲間の協力があつた事をこの紙面で紹介しておきます。二級建築士を目指して勉強中の建築会社勤務の片山奈津子氏です。デザインは彼女の製作です。



台数の足りないプロジェクター等は、士会会員関係者の方々の善意で接続、調整者を含めてご協力をいただきました。また、多くの文具・備品は連合会からの送付分で賄われましたが、その事務局到着が本番の2日前であり、中身のチェックは前日準備の方々と共に配送車への分類を兼ねながら行われました。何度かハラハラの事態もありましたが、『終わり良ければすべて良し』と、多くのご協力のもと事故無く終了出来た事を感謝いたします。

先日の支部の幹事会で参加の方から、「非常に熱心で真面目な大会だった。」「せっかくの県内開催を本会の主要メンバーにもっとPRして、見てもらってほしかった。」と、とても有り難い感想をいただきました。



22 日大交流会を終えて

懇親会班

上田 壽子

うっそ〜〜！！！！と思ったのは宴会が始まって30分もした頃か・・・そおっと宴会場のドアを開けてみると、まあ姦しいおしゃべりと中央の何にも残ってない料理皿！こんなことがあるのだろうか・・・？料理がない！どうすることもできずドアを閉めました。そこで気になったのは、お酒コーナー！また会場に入ってみると5本ほどあったワインのフルボトルはすでになく、一升瓶のワインからお酒を注いでいる西尾さんの姿！変わってもらい、そこからは料理を食べた人たちの楽しい囲みでアッという間に一升瓶も空になっていき、隣の日本酒コーナーでもすべて「奈良のお酒」ということで人気を呼んでいました。

ワインは大阪の飛鳥ワインを委員長と購入し、また日本酒も奈良のお酒をホテルに持ち込みました。(持ち込みは事前に許可を頂きました。)



(和気あいあいの会場)



(民話サロンの奈良のお話)

18:00 ご挨拶・乾杯で始まった交流会は途中「せんとくん」の入場。せんとくんのお相手はパネルディスカッションで参加していただいた奈良女子大の臼田ゆかりさんがしてくださいました。

その後、本保委員長の参加されている「民話サロン」から奈良のお話を4つしてくださいました。あの喧騒の中、前まで行って聞きこまれている方もいらっしました。

後で聞くとところによると女性の懇親会に慣れておられる方は、チェックインもせず荷物を持ち込み、料理の並べ方まで考えて席を決められるそうです。

それと値段を抑える為のメニューである焼きそばやパスタが残っていると、それは見る方もつらいのですが、料理が短時間で無くなったということは、それだけ美味しかったのでしょうか！という解説を

(?) いただき、そんなものかと少しは安心しました。『美味しかったよ』と言ってくれる十分食べた

であろう多くの友人がいたので、それはそれでよかったのだと納得がいきました。ヤレヤレ・・・！大盛況の懇親会でした。



救護班から

西尾 弘江

暑い時期の救護班としては、熱中症が一番怖いので、冷却シート、保冷剤、ぬれタオル、また陀羅尼助や風邪薬、バンドエイド等々・・・を用意しました。しかし、幸いにも具合が悪くなった方はいらず、無事に全建女が終了したことをうれしく思いました。やはり、救護班は暇が一番です！

ただ、奈良女子大学の佐保会館で開館を待つ間、蚊の大襲撃を受け、自転車で来られていた前田さんに虫除けスプレーやかゆみ止めを持ってきてもらったり、買いに走ってもらったりと、結局、私は何の役にも立たず申し訳ないことでした。でも、全建女に参加させていただき楽しい思い出が一杯です。ありがとうございました。



全建女が奈良で開催されるのを知り、趣味の写真を生かしたことなら手伝えると手をあげました。

一年前から始まった準備部会には、できる限り参加し写真を撮り続けましたが、3回は都合がつかず休むことになり3回分は無いままです。内部資料ということでご容赦願います。

毎月の準備部会では、委員の皆様方は本保委員長の下、着々と作業を進められていきました。準備部会メンバーは、それぞれが与えられた事柄を確実にこなしていきました。その中で私が印象に残ったのは、ユニフォームのTシャツのデザインでした。毛筆の行書体文字と大仏殿鴟尾の組み合わせは、青丹の地色とともに、奈良にふさわしい物になったと思います。

写真撮影にだけ専念させてもらっていましたが、終わってみると不足の部分が多数あることが判明し、自分のつめの甘さに愕然としました。平素から、写真の指導者には、もう一步の踏み込みが足りないと指摘されていました。しかし、当日は12,000歩も歩き回り、撮りこぼしの無い様にと考えていたが……。

野村さんと武市さんが撮影されたデータも一緒に使わせて頂き、無事に写真帳にまとめることが出来ました。拙い物ですが記録として残っていけば光栄に思います。



大阪生まれ大阪育ちの私にとって、奈良の第一印象は「宝箱」でした。結婚を機に奈良に移り住み、週末ごとの「奈良に触れる日帰り旅行」が楽しかったことを思い出します。その様な奈良の魅力をたった半日の「大人の修学旅行」に盛り込むことは大変なことでした。

昨年7月に、上田さんから10コースの少人数コースのご提案を頂いた時、どれも魅力的だけど、これ全部を成功させるのは正直難しいのでは？と思いました。ですが、手分けしてそれぞれ担当コースを勉強し、案内文を作成し、下見のあとにタイムスケジュールを検討し、バス会社と交渉と、あつという間の1年でしたが、準備は整いました。

修学旅行当日は参加できず、皆さんの力を信じ、成功を祈っておりました。後日、全国の女性建築士の皆さんが大満足して帰られたとお聞きし、本当にホッとしましたと同時に、奈良の女性委員会の皆さんの頑張りに感謝致しました。暑い中、本当にありがとうございました。



委員長会議に参加して

杉田 数代

7月22日(金)、全建女(奈良)が奈良女子大学で開催され、大学構内の佐保会館2階ホールで全国女性委員長(部会長)会議が10:30~12:30まで開催されました。私は、連合会女性委員として出席している本保委員長の代理参加でした。

会議は、開会の挨拶・協議が5項目・報告事項が3項目と、盛り沢山の内容がテンポよく進んで行き、その中で記憶に残る事が二つありました。

一つ目は、報告事項の開催方法についてのアンケート結果報告に、開催時期について7~8月が68%と一番多く、暑い最中に開催するのが1番とは少しびっくりしました。二つ目は、活動報告について74%が必要とのことで、皆さん優れた活動を聞く機会があればと感じておられるのだと、わが身を振り返り反省しました。来年の平成29年度第27回全国女性建築士連絡協議会の開催予定日は、7月15日(土)~16日(日)東京開催で、初めての土・日曜日の開催となります。若い世代の方々が参加しやすいようにとのことです。平成30年度の地方開催予定地は手を挙げる県がなく、来年の女性委員長会議まで持越しになりました。

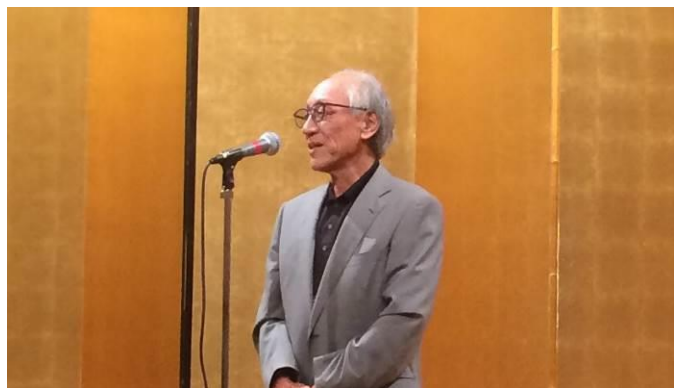
活動報告は各1分間有り、皆さんはよくまとめて話をされ感動しました。また、延長する方も早口にならず、分かりやすく話されその難しさを体感しました。各都道府県の活動報告中に昼食タイムとなり、準備部会で試食検討したおにぎりは食べやすく、おにぎりを選んで正解でした。ただ、心残りは、佐保会館の建物をじっくり拝見できなくて残念でした。また、何かの機会があればゆっくりと拝見したいです。有難うございました。



基調講演報告

岩城 由里子

基調講演は「日本の暮らし 豊かな生活文化の再発見」「女性の力で「発見」から「創造」へ」というテーマで、岐阜大学名誉教授の渡辺光雄先生にご講演いただきました。現在の日本の住まいの原型とでもいえる和洋折衷住宅が普及し始めた大正時代から100年近くたった今、日本の住文化・生活文化史を俯瞰的に捉えて今後の住宅像を創造するという内容でした。(1.住宅の現段階を捉える、2.生活空間を微感覚で見直す、3.和室建築から継承する5つのポイント、4.住宅に季節感を取り戻す、5.これからの「3つの課題」)住まいから和室が消えつつある現在ですが、「日本人は床に座りたい」とでも言える暮らし方や、和室や縁側など家と庭との関係性を含め、日本の家の良さを再考することについてもお話し下さいました。また、渡辺先生のご著書に「窓を開けなくなった日本人」という本がありますが「ZEHの目指す方向性を含め『魔法瓶のような家』が果たして良い家なのか」という疑問を含めて題名にされたそうです。いま進もうとしている方向性と日本らしい住まいの良さについて、私たち建築士はどのように捉えて設計活動をするべきなのか、多くのヒントをいただくことができました。



講演班担当者として先生と事前に打ち合わせをさせていただいた時に、「女性の力」がいかに良い住宅像をつくり出す力になるかということをお話しくださり、サブタイトルも“女性の力で「発見」から「創造」へ」と命名いただきました。女性建築士への期待も込めてご講演いただき、全建女テーマにも相応しい内容になったと思います。聴講者より「渡辺先生のおっしゃる通りで、大変参考になった」というご意見もいただくことができました。

平成28年度全建女のテーマは『未来へつなぐ居住環境づくり』。サブテーマは奈良県女性委員会でパネルディスカッションを想定し、早い時点で“日本の暮らし、豊かな生活文化の再発見”と決まりました。パネリストの選定には時間を要し、リミットを感じ適任ではないと承知しながら引き受けてしまいました。理由は、私は現在「和室のない家」に住んでおり、和室の空間の素晴らしさを感じるの、すでに和室の空間が非日常になっているからです。設計士の仕事は『施主の夢をかたちにすること』と考えるが、それ以上の努力をしたかどうか疑問であったからです。

元来和室が大好きな自分があること、施主との交わりを思い起こすと、結構熱く語った記憶がよみがえりました。

パネリストとしては、アンケート報告がメインの役割です。岩城・奥両氏のご苦勞のデータをいただき、パワーポイントで表現しながら集計結果から見えるものを考えました。不思議にグラフに示される多数派意見より、少数派意見が気になりました。若い将来の建築士の意見は、和室の未来を暗示するものに想えました。また、寄せられたコメントは一見当たり前の意見に思いましたが、その言葉こそが真実であると認識しました。419名の回答者皆様のご協力に感謝し、誠意を持って報告する義務がありました。

事前に3名のパネリストの方々を訪問しました。渡辺先生は岐阜駅まで車で迎えに来て下さり、長良川ホテルで珈琲をご馳走して下さいました。先生とは1歳違い、岐阜県生まれの私はお話しに共感するところが多く、昔の良き時代の会話に夢中で、あっという間の2時間でした。湯川先生には“いこいの家ケアセンター”を訪問し、床座の生活の必要性、人間の回復力を信じる大切さをお聞きしました。『私のバリアフリーの家にバリアを造ろう』とパネリストとして発言しようと折角考えたのに、本番では忘れてしまいました。臼田さんとは近鉄奈良駅近くの喫茶店でお会いしました。可愛らしい顔立ちにもかかわらず、和室生活のない体験からの考えをしっかりと

と示され、委員長・岩城さん私の三人はタジタジでした。

本番がどう進行されるかコーディネーターの方針が示されたのは前日でした。実はいきなり本番という経験が多く、逆に細かく質問内容・時間配分が指示されていることに、少し困惑いたしました。

まず、自己紹介に始まり、各々パネリストのトークと続きました。渡辺先生は幼いお孫さんとの暮らしに触れられ、穏やかなお顔はサザエさんちの波平さんのようでした。



湯川先生は理学療法士・介護支援専門員としての取り組み現状、「高齢者がひとりになるということ」から「リハビリ特化型とは」、そして「小規模多機能の役割・脱椅子生活」等、説得力のある話でした。

臼田さんは現在マンション生活で、ご実家は和室のない近代的住宅とのこと。和室には堅苦しい印象を持っておられることから始まり、海外生活の経験等を話されました。私は用意をしていたアンケートの報告を半分にカットし、早口に喋り何とか時間内で終わらせました。

「未来の和室についてどう思いますか」のコーナーでは、アンケート結果にみられる建築士の和室の未来像を話そうと、5分間の予約をしていたのですが、モタモタしたため途中でカット、消化不良に終わりました。奈良スタッフの皆様ごめんなさい。

後半、パネルディスカッションはコーディネーターの絶妙な進行で、まるでテレビ番組のような華やかなものになりました。会場からは沖縄の参加者、三井所会長、そして奈良女子大学の井上副学長にも質問がとび、ステージと会場が一体となり、素晴らしいパネルディスカッションが成立したと思います。

今、日本の暮らしから和室が減少し、また建築士の和室に対する知識低下を問題に取り上げた今回の全建女ですが、奈良県建築士会女性委員会の今後の活動が大切です。大きな飛躍の契機となれば、凄いいイベントを奈良で開催した意義があると思います。

和室に関するアンケート調査結果

一般社団法人奈良県建築士会女性委員会では、全国の女性建築士（公益社団法人日本建築士会連合会会員 265 名）及び、住居系学生（奈良女子大学、武庫川女子大学 154 名）の合計 419 名の方にご協力を頂き「和室に関するアンケート調査」を行った。（調査期間：平成 27 年 12 月～平成 28 年 2 月）

<アンケート対象者>

・女性建築士（265 名）について

調査対象者の年齢は 25 歳～75 歳で、分布は 20 代（1%）、30 代（14%）、40 代（35%）、50 代（33%）、60 代（16%）、70 代（1%）となり、40 代・50 代の回答が 7 割近くになった。

生活地域（今まで最も長く生活をしていた）別割合は、北海道東北（20%）関東（16%）中部（17%）関西（21%）中国（9%）四国（6%）九州（11%）になり、おおよそ全国平均的に回答を得ることができた。

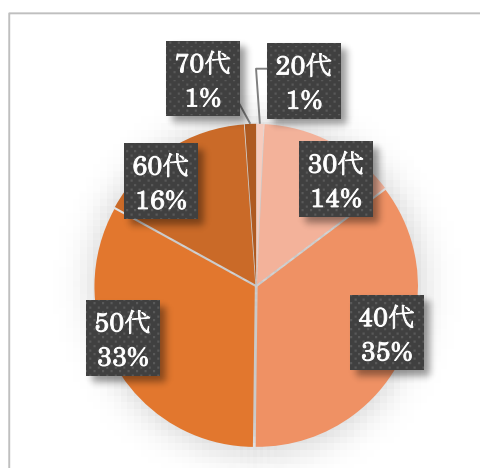


図 1 回答者（年齢別）

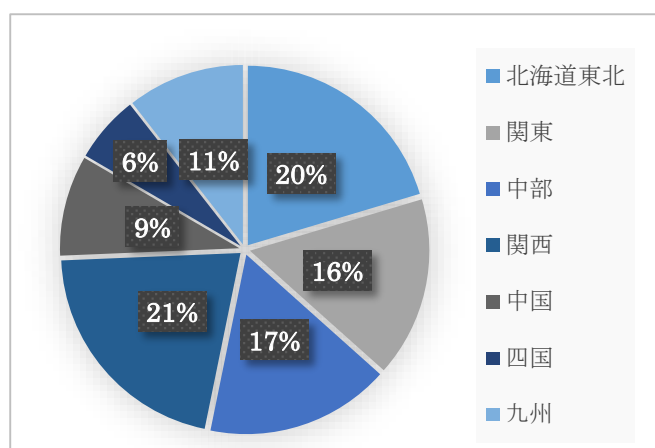


図 2 回答者（地域別）

・住居系学生(154 名)について

調査対象者の年齢は 18 歳～27 歳で、分布としては 19 歳～22 歳が 82%を占めた。

生活地域（今まで最も長く生活をしていた）別割合は、関西が 52%と一番多く、中部（22%）関東（8%）中国（6%）九州（6%）四国（3%）東北（3%）の順になった。両校とも関西の学校であるため（奈良女子大学は奈良県、武庫川女子大学は兵庫県）、地域には偏りが見られた。また、半数近くは現在下宿生活をしている可能性がある。

今回の調査結果は、全国女性建築士と学生を合わせた結果によるものと、それぞれにおける結果によるものを設問内容に応じて検討した。

<和室での生活経験について>

Q1 Q2 和室で生活したことがあるかどうかという質問の回答は、99%（419人中417人）が「ある」という回答で、その中で和室の生活は良いかという質問にたいして「はい」と答えた人は97%（417人中405人）だった。また、「いいえ」と回答したうちの33%は学生で、33%は20～40代前半の建築士だった。

Q3 生活したことのある和室の使われ方については（複数回答）、客間、主寝室、仏間、居間、同居高齢者寝室、予備室の順に多く、その他としては子ども室、仕事部屋、衣類部屋、納戸物置等の回答があった。年代層別では、どの年代層も用途順位、割合ともほぼ同じだったが、20代30代においては同居高齢者寝室と予備室の割合が若干低い傾向がみられた。

Q4 和室での生活をしたことのない回答者のうち、和室で生活してみたいと回答したのは100%だった。

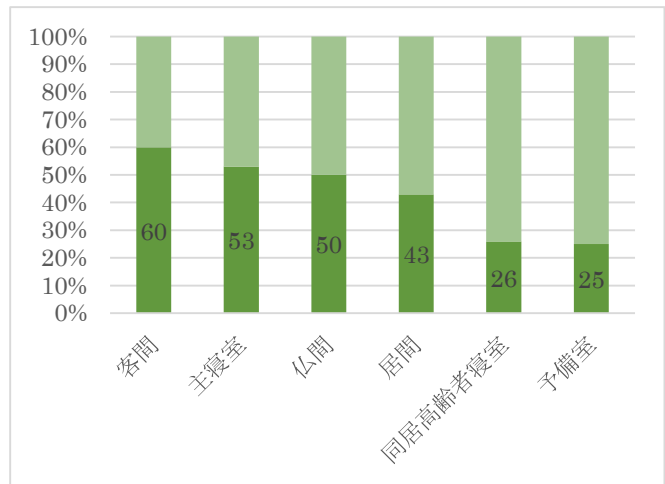


図3 和室の使われ方（生活経験）

<くつろぎの場の居間は“椅子座”か“床座”か>

Q5 現在の住まいの「居間」における起居様式について

- ・床座（板間）14%
- ・床座（板間 ソファ・椅子有）20%
- ・床座（畳）21%
- ・床座と椅子座のどちらも 3%
- ・椅子座（板間）38%
- ・椅子座（畳）4%

上記より、椅子座と床座の割合は

- ・床座 58%（「床座・椅子座のどちらも」は含む）
- ・椅子座 42%

という結果になった。

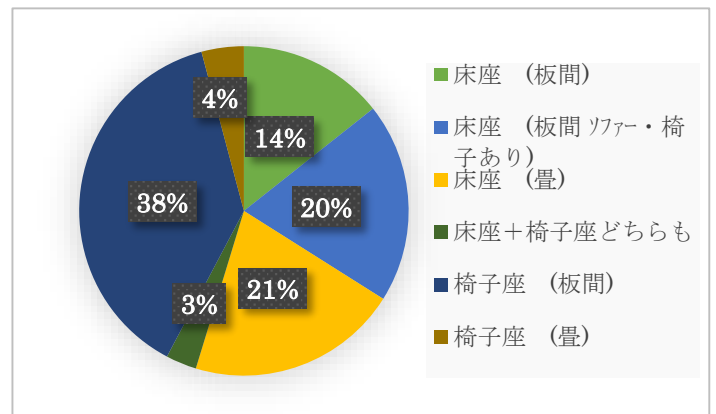


図4 居間の起居様式（全国）

また地方別に分類すると、床座の割合（「床座・椅子座のどちらも」は含む）は、北海道・東北61%、関東・中部60%、関西・中国・四国が58%、九州が50%となり、僅かではあるが温暖地域よりも寒冷地域の方が、床座が多い傾向が見られる。また九州地方は、「床座と椅子座のどちらも」の割合が他地方と比べて多かった。床素材の畳の割合は北海道・東北30%、関東・中部21%、関西・中国・四国が14%、九州が20%と、地域差が見られた。

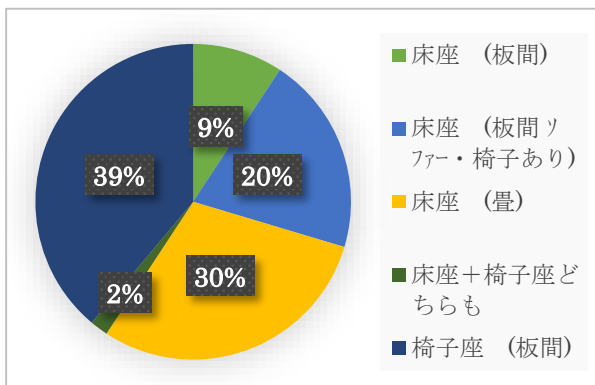


図5 居間の起居様式（北海道・東北地方）

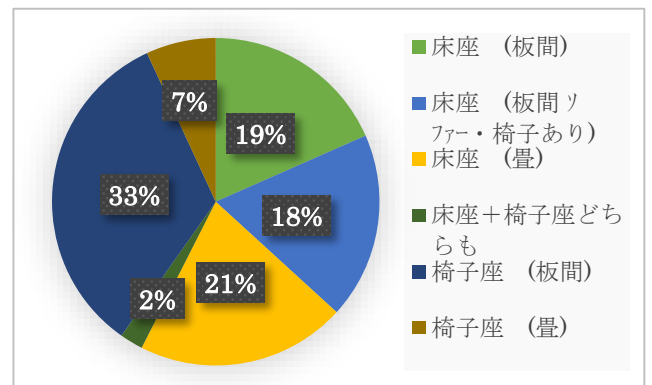


図6 居間の起居様式（関東・中部地方）

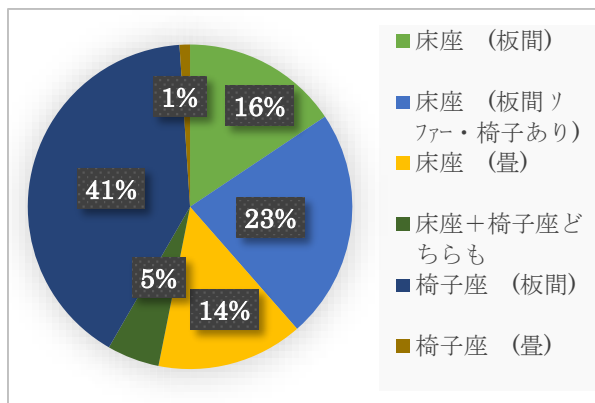


図 7 居間の起居様式（関西・中国・四国地方）

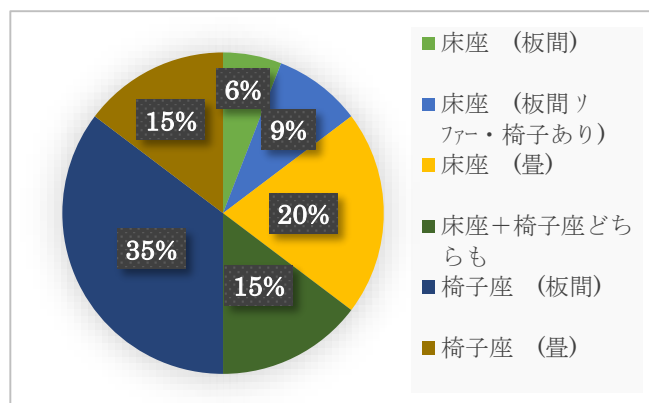


図 8 居間の起居様式（九州地方）

また、都市部とそうでない地域の差については、今回の調査では有意な差は見られなかった。

年齢別に分類すると、右図のような結果になった。床座の割合は 20 代 30 代が 52%、40 代が 48%、50 代が 57%、60 代 70 代が 64%になり、40 代以降は年齢層が高いほど床座の割合が増える傾向がみられ、畳の割合も同様の傾向がみられた。

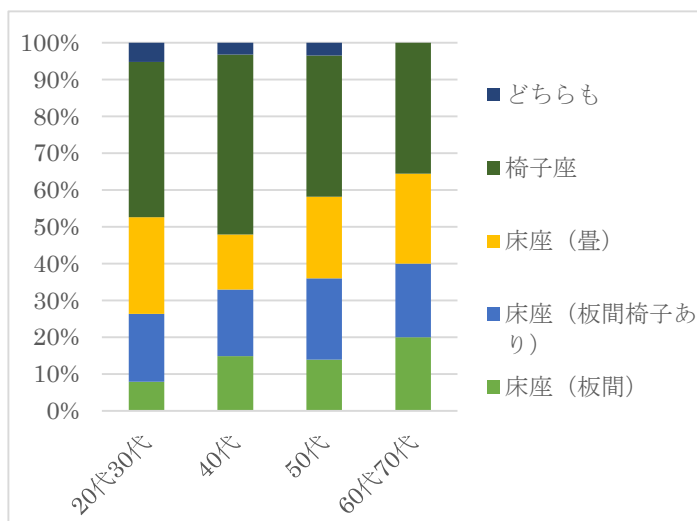


図 9 居間の起居様式（年齢別）

※Q5 の起居様式調査結果は、学生のうちの下宿生活（仮住まい）を考慮し女性建築士のデータ（265 名分）のみで検証した。

<和室とは・・・和室のイメージについて>

Q6 和室のもつイメージ（複数回答）は、畳（95%）、襖・障子（75%）、床の間・書院（34%）、板天井（22%）、真壁（22%）、縁側（18%）という結果になった。（パーセンテージは全回答者のうち選択した人数の割合）

和室イコール畳敷きというイメージが強く、また、襖や障子などの和の建具類も和室のイメージとして強いことが分かった。その他の回答として、長押や装飾金具等があった。

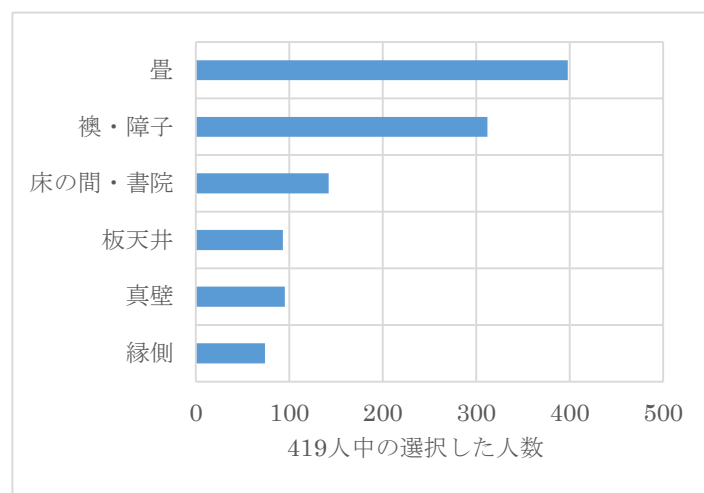


図 10 和室のもつイメージ（単位は 419 人のうちの選択数）

<今後の和室について>

Q7 和室減少の理由について（複数回答）

- ・和室は床座から椅子座への生活様式の変化に対応できない 44%
- ・若い世代は圧倒的に近代的住空間を好むため 35%
- ・リフォームやメンテナンスが容易でないため 11%
- ・建築費は高く、工事期間も長いと思われるため 9%
- ・伝統的工法のため、技能者が不足しているため 5%

その他として「最近の家は小さく、取り入れる面積的余裕がない」「予算が低くて取り入れることができない」という経済的事由や、「高齢者の膝の負担が掛かる」「介護をするためには椅子・ベッドの生活の方が良い」という高齢者の住環境に関わるもの、または「和室の良さを知らない（子供時代の体験がない）」「和室の上手な住まい方・楽しみ方を知らない」「安普請の和室しか知らず、本当の和室の良さがわからない」という経験則によるものも多く挙げられた。また、「住教育の程度が低い」「設計者が提案しない」「椅子など家具の文化が生活に浸透している」等の理由も挙げられた。

Q8 和室は今後どうなるか。（複数回答）

- ・従来の設えでは使いにくいので、簡素化された和室になる 38%
- ・リビングの一角にある畳コーナーぐらいになる 23%
- ・施主からの要望がなければ住まいからは消滅するかもしれない 21%
- ・現在のまま残る 18%
- ・もっと見直されて住まいに和室が増える 8%

その他として「簡素化した和室と本格的和室に二極化する」「仏間としては残る」「和の趣を好む人、必要とする人（茶道や華道）等、一部のみにだけに要望されるものになる」「内装における和の意匠的表現として残る」「畳コーナー程度で残り、本格的和室は住宅から姿を消す」等の回答があった。

Q9 今後も和室があった方が良いか。

- ・「はい」と答えた人は93%で、その理由として「落ち着く、くつろぐ、居心地が良い」、「畳は気持ちが良い、温かみがある」、「多様性があるのが大きな利点」、「和室は日本の伝統・文化だから」、「床に座る文化の良さを継承したい」等、和室の快適性、多様性、日本の文化であること、床座の良さ等についての回答が多く見られた。
- ・「いいえ」と答えた人（7%）は、その理由として「無くても困らない、必要性を感じない」「あっても使用しない」、「個室として不向き」、「高齢者には不向き」、「膝や腰への負担が大きく生活しづらい」、「清潔空間として維持できるかどうかかわからない」等の回答があった。

＜設計者の立場から＞

Q10 住宅設計時に和室を取り入れるか。

- ・はい 38%
- ・いいえ 2%
- ・施主次第 54%
- ・その他（設計活動をしていない等） 6%

Q11 施主から和室の要望が無いときに、あえて和室を勧めないか。

- ・勧めない 41%
- ・勧める 59%

Q12 「勧めない」と答えた理由（複数回答）

- ・なくても生活に困らないから 39%
- ・洋風の家には合わせにくいから 11%
- ・現代的な暮らしの中では使いにくい、有効に使えないから 8%
- ・日頃の手入れ（掃除、畳が焼ける・毛羽立つ 等）が面倒だから 8%
- ・いずれ物置部屋となってしまうから 5%
- ・古臭いから 1%
- ・その他 52%（施主の要望を優先するという回答が多数。）

Q13 「勧める」と答えた理由（複数回答）

- ・和の空間が良いから 57%
- ・ゴロゴロできるから 53%
- ・畳は気持ちが良いから 52%
- ・日本的な意匠が良いから 38%
- ・和室は日本の風土に合っているから 32%
- ・お正月・お雛様など、日本的な行事の時に飾りができるから 29%
- ・和室の続き間は開放感があるから 17%
- ・冬場、温かいから 10%
- ・その他 15%（多様な使い方ができる、乳幼児の子育て空間として適している、日本の文化だから、来客時に便利、畳は気持ちが良い）

Q14 住宅設計で取り入れた和室は、どのように使われているか。（複数回答）

全体の回答では、客間（68%）、仏間（53%）、居間（29%）、主寝室（19%）同居高齢者寝室（20%）、予備室（33%）となった。年齢別に比較すると各項目とも大きな差は無かったが、予備室のみ20,30代が24%に対し、年齢が高くなるに連れ割合が増し60,70代では49%となった。その他の回答として「居間の畳コーナー」「居間の一部」「乳幼児の育児室」「子どもの遊び場」「茶室」「趣味の部屋」「ご主人の書斎」「寝室の畳コーナー」等が挙げられた。

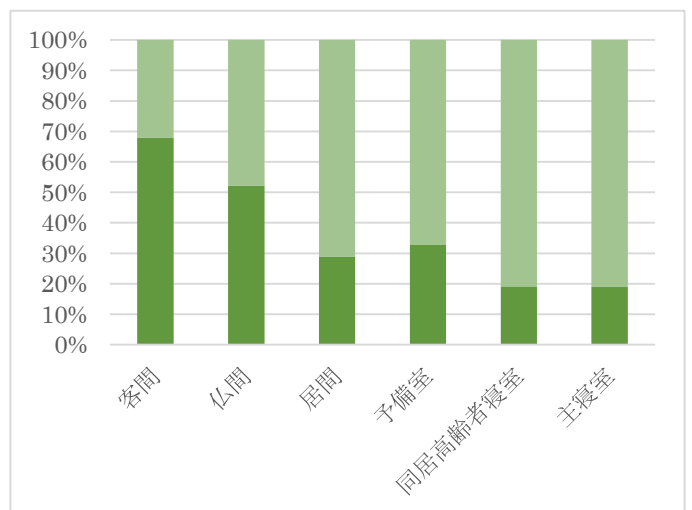


図 11 和室の使われ方

※Q10～Q14の調査結果は設計時の経験による回答の為、女性建築士のデータのみで検証した。

＜畳の間の取り入れ方を考える＞

Q15 現代の暮らしに畳の間を取り入れる場合、どのような取り入れ方が良いか。（複数回答）

全体の結果は

- ・居間続きの小上がり等の畳の間（茶の間の空間） 69%
- ・畳コーナー 44%
- ・床の間のある座敷 33%
- ・洗濯物をたたんだりアイロン掛けをする家事空間のような畳の間 22%
- ・茶室 18%
- ・二間続きや田の字型の畳の間（可変空間） 13%
- ・和室玄関 6%

となった。年齢別回答には若干のばらつきが見られた。「床の間のある座敷」は年齢層が高いほど回答が増える傾向にあった。

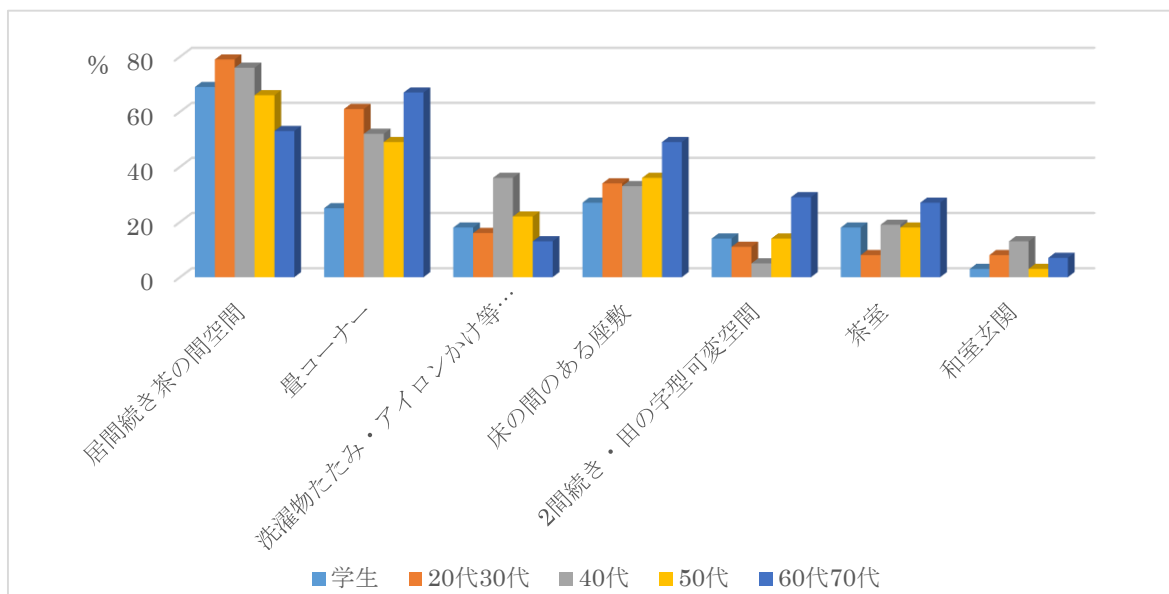


図 12 現代の和室の取り入れ方（年齢別・％）

その他として、「趣味室」「書斎」「寝室」「寝室の畳コーナー」「予備室」「居間続きの多目的に使える予備室」「客間（小さくても）」「仏間」「掘りごたつのダイニング」「心を落ち着かせる小間」「玄関に直結した土間続きの間」「玄関・廊下等すべて畳敷き」等の回答があった。

Q16 和室に興味があるか。

- ・はい 90%
- ・いいえ 10%

「いいえ」と答えた人について、各年齢層ごとの総数に占める割合をみると

学生・20代（18%）、30代（5%）、40代（5%）、50代（7%）、60代70代（5%）

という結果になった。

アンケート報告

奈良県建築士会女性委員会は、日本人の生活習慣の変化により、地域の環境に即した伝統的な住まいに暮らす人が減少し続けることに危惧し、更には建築士自身が和室に関する知識不足であることを痛感し、『和室勉強部会』を立ち上げました。そして平成 28 年度の全国女性建築士連絡協議会（奈良）に先立ち、アンケート調査を行いました。多くの皆様にご協力いただいたことを感謝申し上げます。

アンケート回答者は女性建築士が 265 名、住居系学生が 154 名、合計 419 名です。

アンケートの結果、和室で生活した経験のある人は 99%、今後も和室のある生活がしたいと思う人は 93% でした。理由は『居心地の良さ』、『畳の温かみ』、『多様性』をはじめ『日本特有の伝統文化』を掲げています。反対意見に『和室の必要性を感じない』、『伝統的建築物として残すべき』といった意見が次世代建築士にあり、和のくらしの未来を垣間見る思いがします。勿論、高齢者には座る・寝るは困難といった回答もあります。

また、今回のアンケートの結果で見えてきたものがあります。和室のある生活を良いと思うと答えた建築士が 97% ある一方、その過半が“建築士の立場で設計時に和室を取り入れるか”の質問に対し『施主次第』と回答しており、設計業務の難しさを感じます。更に、施主から和室の要望が無い時に和室を勧めるかどうかを聞くと、勧めるが 59% でした。半数以上の回答ですが必ずしも積極的であるとはいえません。

予想外の回答がありました。それは、くつろぎの場“居間”における起居様式についてです。アンケートの結果は床座が 58% と 6 割近くあり、椅子座は 42% であったこと。

大正 9 年の生活改善運動指針により、従来の床の上に座り、寝る『床座』に代わって、椅子やテーブルによる『椅子座』が提唱され、同時に各室プライバシーの確保や、台所・家事空間の効率化が重視されるようになりました。あれから 96 年、多くの日本人はすでに大多数が椅子座に移行したかと予測していたところ、床座が 6 割というアンケート結果を得、日本の和のくらしがいかに捨て難いものであるかを証明している気がいたします。

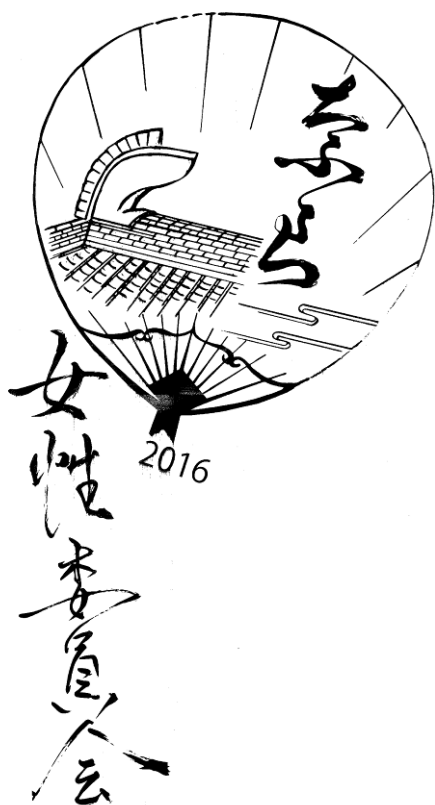
昔、畳に座って洗濯物をたたみながら、ふと手をとめて庭先を眺め、少しぼんやりする至福の時がありました。今や生活の合理化を求め、家事室でたたみ、即デリバリーできる家具に収納などと、施主の要望のまま、もしかしたら住宅雑誌やインテリア雑誌の影響でつくられた風潮に設計士も一役担っているのかもしれないとも思います。ほおっておいては私たちのすまいから和室はなくなってしまふ。しかし、『まだ、今なら間に合う。伝統的技能者もまだ健在』です。大半の人は和室が大好きで、和室でのくらしに憧れを持っているのはアンケート結果からも明らかです。建築士は魅力的な和のくらし、新しい時代の和のくらしを提案することを、只今から始めなければならないと考えます。

記：岡田 伸子

A分科会「防災への取り組み」

参加者 40名

コメンテーターは、神奈川県建築士会、浦絵美さん、東二郎さん。「つどう・つくる・つながる・ひろがる」をモットーに、避難所シミュレーションゲーム（HUG）のワークショップを神奈川県各地で開催して4年。その活動を報告。



B分科会「エネルギーとくらし」

武市 啓子



B分科会では、エネルギーとくらしの発表がありました。京都の会員による「平成の京町屋」と「省エネと自然の移ろいを感じる家」の実際例の発表でした。省エネ住宅では、街中に住むこと、いわゆる

ウナギの寝床式の敷地でいかに暮らしやすくするかの一つの実例として、奈良町にあるような中庭を取り入れた建築配置があり、昔からの知恵がここにもいかされているなど感じました。如何にして省エネをしつつも自然を感じながら暮らすことができるのかの問いかけのひとつとして大変参考になりました。昔からの竹木舞の代わりに木木舞を使った木刷り工法もあり、軒の出、中庭の配置になど、機械に頼らず自然の恵みを最大限にいかす為の建築的な工夫をされていて、非常に興味深いものでした。

また、そのことを竣工後もきちっと検証し、データとして残し次世代に引き継いでいくこともされていました。個人の感覚でしか表されなかった事を、データとして残すことで、より説得力のあるものになっていました。

平成の町屋に関しては、実際に京都の敷地に作られた町屋での子供たちとの体験学習の発表があり、京の冬のしつらいと、夏のしつらいを実体験して感じてもらうことで、昔からの暮らし方を感じてもらうという試みでした。打ち水、蚊帳、怪談話など、昔からの暮らしを子供たちに肌で感じてもらい、昔の人の暮らし方の知恵も知ってもらい、今ではエアコンなどで感じることの少なくなった季節感を、もう一度和室を通して体験してもらう、とても大切な試みだと思いました。



C分科会「歴史的建造物と建物再生」

中西 佳奈

C分科会は、コメンテーターである米村さんのご自宅の改修体験をお話頂けるとの事で、どんなお話が伺えるのかワクワク♪しました。

奈良県橿原市の今井町伝統的建造物群保存地区内の伝統的建造物である住まいを改修するにあたって、どのように町屋の良さを生かし弱点を克服したか、また「歴史的町並みをつなぐ」ために、町屋の所有者が進んで町屋を残そうとする意識を持つには何が必要かについて話されました。



文化財的価値を可能な限り損なわない形で、現代社会が抱える省エネルギー問題や自然との共生、コミュニティ

の希薄化等へのアプローチについて試されました。改修にあたっては耐震性の確保、住環境・通風の確保、文化財価値の維持保存、近隣や街区との関係性維持、伝統的工法を広げるシステムの構築の5つを方針とされ、住環境については1年間温湿度の測定調査をされたそうです。測定器を設置された室内の写真を見せて頂いたのですが、室内の色々な箇所に設置され不思議な光景でした。調査結果は穏やかな温度変化と高い調湿性が確認されたそうです。

最近ではプライバシーが重視される中で、地域のコミュニティにも配慮しながら又、現在の生活と変わらない機能を備えた改修は大変興味深く大変魅力的でした。

その後、意見交換会の中で文化財の指定をうけるに当たり相続税や固定資産税などの税金についての問題や、空き家対策についての質問や意見が出ました。また実例として、古民家からデイサービスへ改修する取り組みについての体験談も伺いました。えっ、もう終了!! まだまだ楽しいお話を伺いたかったのですが、あっと言う間の140分でした。

町屋の所有者が進んで町屋を残そうとする意識を持つには何が必要か……。

過去と未来をつなぐ。人と人をつなぐ。

あっ、最近、今井地区に若いカップルが越してこられたそうですよ♪

D分科会「環境共生住宅～住み継ぐ～」

前田 晴子

D分科会テーマは「環境共生住宅～住み継ぐ～」です。司会は磯中様、アシスタント水谷様(共に山口県建築士会)。コメンテーターは渡辺様、松葉様(共に岡山県建築士会)。まずコメンテーターである岡山県建築士会女性部会様の活動報告、その後質疑応答、意見交換、まとめ等で午前中はハズストップで、あっと言う間の分科会でした。

岡山県建築士会女性部会では、生活に密着した女性建築士の立場から「皆様に何か『住まい、暮らし』に関する、役立つ情報が発信できればいいな」との想いでリーフレットを年2回程作成されており、外との繋がりができたとの報告でした。

掲載内容は「岡山県住宅事情」「家のライフサイクル」「片付けに悩むあなたへ 何から始める? MyHome」「誰と家を建てる」等満載です。ちょっと面白く感じたのは、岡山県は田んぼ・畑が多く新築が可能なので、県民は持ち家・一戸建て・新築志向が高いという事、反対に一戸建ての空家が7万戸あるという事です。家は建てて終わるのではなく住み続ける事、住み継ぐ事の大切さをもっと多くの方々に知ってほしいとの話は全く同感です。

4班に分れての意見交換は、よくぞ短い時間で各班6名が意見を言い合い、模造紙にまとめ上げられたなと驚きでした。「住



み継ぐ」に関しての4班のまとめは「家歴書を作ろう」「中古住宅を選ぶという選択」「(色々業者もあるけど)まずは建築士に相談して」「空家判定士※に判定してもらおう」でした。

今回「住み継ぐ」の分科会に参加して、新聞やニュースで報道されている空家問題が、本当に全国的にあるんだと改めて実感しました。家を手入れして大事にし、そして愛して、家族と共に(又は他人様でも)できれば次の世代へと、住み継ぐのが当たり前住宅事情になって欲しいと改めて思いました。

※ 徳島県では空家利活用可否を判断する全国初の「空家判定士」制度を設置されました。

E分科会「景観まちづくり」

平島 朋子

分科会については、8つのテーマの中でどの部屋のスタッフになるかということで、タイトルと説明文で「景観まちづくり」というのに惹かれました。奈良もそうですが、石川県七尾市にも古い町並が残っていて、どう活用されているのかを知りたいと思ったからです。本来は奈良のスタッフなので着席せずに待機しないといけませんが、こういうのが初めてなら座って参加してみてもいいということで、皆さんと一緒に聞かせていただきました。

七尾市では町並景観を大切にしていけるために、まず小学生にクイズなどを交えて楽しく見学しながら、自分たちの住んでいる地域には歴史と魅力ある古い建物が現存していることを知ってもらうという取り組みを続けておられます。保存が大変なことを知っている大人に説明するよりも、若い人や子供に潜在意識として古き良き建物は大切にしなければいけないと思うのは、遠いようだけれどなるほどとも思いました。奈良県でも今井町、ならまち、五條新町などは以前よりできるだけ残していくという方向ですが、これからまだまだ価値ある古い建物が出てきます。出席されている他の地域の方々からも、それらを残しながらうまく活用するには自分達だけの力ではなく、行政や学校も協力してもらわなければならないというご苦労話や大変さもお聞きしました。

また分科会後の大人の修学旅行は旧平城山街道散策だったのですが、その中の奈良少年刑務所が来年閉鎖はされるが建物は保存活用の方になるということで、個人的にも昔の洋館や煉瓦造りの建物が好きなのでほっとしています。



F分科会「子どもと住環境」

寺岡 春恵

私は、これまで全建女には、全く参加したことがなく今回、奈良で開催されることで初めて参加させていただきました。

F分科会では、群馬県の建築士会女性委員会が、「紙ぶるるくん」をつかった幼稚園・小学校低学年



(会場の様子)

の子供達を対象とした、ワークショップ開催についてのお話をお聞きすることが出来ました。

「紙ぶるるくん」は、名古屋大学福和研究室の実験材料として、地震に弱い建物の特徴を把握し防災啓発活動に用いられているペーパークラフトです。筋交いについて知ってもらい、筋交いの有無による揺れの違いを知ってもらうことが出来るクラフトです。

開催にあたり苦慮されたのは、どのような場所で行うかということだったようです。地元の絵画展やお祭りなど他のイベントに参加し開催すると、家族連れの参加者が集客でき、楽しく製作いただき家の耐震化について学んでもらうことが出来たようです。

分科会でも実際に「紙ぶるるくん」を作製し、筋交いの有無でのクラフトの動きを見させていただき、改めてその大切さを実感できるものでした。

また、他の士会からも子供達を対象としたワークショップの取組やその問題点、解決策、その効果などについて



(紙ぶるるくん)

活発な意見をお聞きすることが出来ました。北海道の士会では、行政より出張講座の依頼を受け、高校の家庭科の授業で「住宅分野」の講義をされているようです。その講師育成の為に士会の方々に育成講座の案内をしたところ、これまで参加されていなかった方々が来られ、こちらの活動も盛り上がっている様でした。他に長崎のお菓子の街づくりや軍艦島まちづくりなど、たくさんの取組をお聞きすることが出来、刺激ある分科会でした。

G分科会「高齢社会と福祉住宅」

石黒 國子

愛知建築士会・内藤恵子氏の認知症を発症した高齢者のための増築、和歌山県建築士会・大前高志氏の高次脳機能障害を患われた高齢者のための改修、この2件の事例報告からG分科会は始まりました。



車椅子対応の床材や照明回路、水回りの配置や床の段差解消、視認性を高めることやできうる限り車椅子を使用しなくてすむような動線計画、脳の働きの連動性の利用などハード面のみならずソフト面についても学ぶことが多々ありました。

事例報告の後、全国の参加者の中には高齢者向け住宅改修の経験豊富な方が多数おられ、活発な意見交換が行われました。特にポータブルトイレについては様々な種類があるのを知る機会となりました。



今回分科会に参加して学んだことは、病院や施設から退院されてからの住宅改修を始めるにあたっては、まず、退院者

に同行し、改修依頼者のバックグラウンドを十二分に把握し、次に介護専門職の方の意見を鵜呑みにすることなく建築士として生活者としての見地から改修計画をすすめていくことが重要だということです。改修にあたっては、どうしても「高齢者のために」ということばかりを考えがちですが、同居する家族の利便性も疎かにすべきではないということにも気づかされました。

福祉住宅とは介護目的ばかりではなく、高齢者が生活者として自立し、外部社会と触れ合える住宅にすることが目的の一つだと改めて教えられました。

高齢化社会が加速するなか、住宅改修減税制度が平成30年3月完工をもって終了することが予定されています。それまでに今後改修の機会が益々増えることは必至です。国の次の一手が打たれることを待望するとともに、建築士として福祉住宅を丁寧に一步一步考えていこうと思いました。

大人の修学旅行(1コース)「旧平城山街道散策」

青木 順子

私は会議の出席や準備への参加ができなかった分、「当日は働きます!!」と宣言していたので灼熱の太陽のもと徒歩めぐりを覚悟していました。が、割り当てられた担当コースは、「どこ?行ったことないけど。ここを案内?説明?えー!?!」という隠れた名所コース。二月中旬、まず三人で下見。昼食メニュー選びからのスタートはのりのりでしたが、突然の雨にコンビニで三人分の傘を入手し、傘をさしたりしまったりの天候のもと、最終地点の若草山では極寒で凍えそうでした。本番の猛暑を想像しながら「あっちが耳成山でこっちが生駒山で」とパノラマの風景を確認しましたが、とにかく寒かった・・・

有名どころを含まないコースのため、「申し込みが少なくて催行しないかも」と心配しましたが18名の方に参加いただき、各所での見学や説明にぴったりサイズでした。当日はスタートから皆さんわくわく旅行気分で、昼食にビールをたしなまれた方もおられ、少年刑務所に着く前は「暑そうだしバスの中から見る」なんて冗談もきかれましたが、特別な許可の建物撮影に、各々が走り回ってベストポイントを探し、撮影に夢中になる姿は、やっぱり建築士!でした。豆比古神社では樹齢1200年の杉にパワースポットを感じ、能の源流とされる翁舞について資料館で詳しい説明をしていただきました。わずかな時間に、コース外の植村牧場に立ち寄り、ソフトクリームを手にいれた方もいて、さすが女性建築士の会、ツアーを自由に楽しめるパワーにびっくりでした。コースへの参加理由をお聞きすると「自分ではめぐれないコース」「パワースポット」「少年刑務所の建物」という、嬉しい理由がきかれました。私は当日のみのお手伝いしかできませんでしたが、綿密な準備のおかげで満足いただけた小旅行となったと思います。



大人の修学旅行(2コース)「奈良公園散策」
中辻 千重

2コースは、19名の参加者の方々と共に、歩いて散策をするコースで、「茶亭ゆうすい」での茶飯のランチを楽しんだ後、春日大社、ささやきの小道、志賀直哉旧居、奈良市写真美術館、頭塔を見学して周りました。

春日大社は今年が式年造替の年に当たっており、夏休み最初の週末も重なっていたせいか、かなりの人出でした。春日大社の参道の、あまり目立たないところにささやきの小道への入り口があり、志賀直哉旧居へ続く道中は、たつぷりと森林浴ができ、この時期に涼を求めて散策するにはぴったりの場所でした。志賀直哉旧居では、館員の方から志賀直哉氏の生前のエピソードなども交えた詳しい説明をしていただき、時代を感じさせないモダンな間取りに皆さん見入っておられました。奈良市写真美術館では、建物と共に奈良の歴史を感じさせる大和路の写真も楽しむことができ、頭塔では建築物とも遺跡とも取れるような不思議なたたずまいに皆さん驚かれました。



炎天下をずっと歩くコースでしたが、皆さんお元気で見学を楽しんでおられました。帰りの道中で、お一人の参加者の方から「実は第1希望で他のコースを希望していて、この2コースに参加することになったのだけど、お昼ご飯や見学の内容が驚くほど私の好みにぴったりだったので、このコースに参加させてもらえたのは、かえって良かったです。」と嬉しそうに言って頂けたのが、とても印象的でした。私も、恥ずかしながら頭塔は今回初めて知り、志賀直哉旧居もじっくり見学ができたのは久々だったので、とても勉強になりました。多くのコースのプランを検討し、入念な下準備をしてくださった準備部会の皆様には大変感謝しています。

大人の修学旅行(3コース)「奈良町散策」
安田 千鶴代

3コースは、ホテルサンルート奈良 B1F 日本料理「おばな」の昼食から始まりました。「おばな」の名前は、江戸時代この地に小さな芝居小屋が建ち、明治42年奈良町有志の旦那衆により本格的な回り舞台の有る芝居小屋『尾花座』が建てられたことに由来します。当時の花形歌舞伎役者一行による、こけら落としが行われました。その後、時代とともに変遷し現在はホテルになっていますが、ホテル玄関口には尾花座の石碑が残っています。食事後、徒歩にて元興寺(国宝)へ行き、特別公開中だった禅室(国宝)も見学しました。



(元興寺国宝本堂(極楽坊)南側より)



(今西家書院内で説明を聞く)

今西家書院では、室町時代における初期の書院造り建造物の構造及び造作の説明に、建築士としての質問や先人の技術に感心する言葉が沢山聞かれました。

続いて十輪院では、7月23日の地藏盆法要で本堂(国宝)軒先には多数の提灯が吊られ記念撮影でニコリ。最後は日本聖公会奈良キリスト教附属親愛幼稚園内(国の登録有形文化財)の教会講堂を見学しました。説明をして頂いた副園長からは、文化財で有るがための耐震改修の難しさについての悩みもお聞きました。また本コースの参加料から改修募金箱に献金させて頂きました。参加者全員から、「楽しかった、有難う」のお言葉を頂いて無事見学を終りました。



(提灯が吊られた十輪院本堂前で記念撮影)



(親愛幼稚園 教会前)

大人の修学旅行(4-1 コース)「美術館への旅」

奥 宏美

大人の修学旅行 美術館への旅は、2組に分かれて催行されました。4-1 コースは、大和文華館、旧佐伯邸、松柏美術館の順番で見学をし、寺岡さん、兵庫県建築士会の森澤さんと共に案内をしました。昼食を奈良パークホテルで済ませた後、まず、大和文華館を見学しました。

参加者は、関東の方を中心に関西以外の方々と、駐車場から木々に囲まれたアプローチを進んで行くと、翡翠色と白のコントラストが美しい『なまこ壁』の建物が目の前に現れ、一瞬、皆さんの足が止まりました。一斉に写真撮影が始まり、大和文華館の特徴的な外壁である『なまこ壁』を、間近で興味深く見入っていらっしゃいました。当日は、生誕 180 年文人画家 富岡 鉄斎の作品が出陳されていました。

次は、松柏美術館に隣接する旧佐伯邸へと移動しました。このコースは美術館を巡りますが、大和文華館は吉田 五十八氏の設計であり、旧佐伯邸は野村藤吾氏の設計と、両方とも日本を代表する建築家の作品で、建築士の方々にとってはとても楽しい見学コースだったと思います。旧佐伯邸は外観だけでなく、お茶室やプライベートな部屋の内覧もでき、



旧佐伯邸にて

そのうえ学芸員の方の説明付きと、参加者の方々のテンションは上がりました。書籍でよく目にする建築家の作品に、短時間ではありましたが

が体感できたことには、ご満足いただけたと思います。

最後に、松柏美術館で上村 松園・松篁・淳之 三画伯の「感じる力」展を鑑賞し、全行程が予定通りに進み無事終了しました。

奈良には神社仏閣をはじめ旧跡も多数ありますが、あらためて知ることの多さにびっくりしました。このコースに参加された方から「奈良は奥が深いね」と言っていたいた時は、本当にうれしく思いました。

大人の修学旅行(4-2 コース)「美術館への旅」

安井 ひとみ

エクスカーション 4-2 コースは美術館への旅と称して、松柏美術館・旧佐伯邸と大和文華館の見学コースです。参加人数 22 名。担当は上田さんと私 安井、応援は滋賀の大村さんでした。

13 時過ぎに“薨”を出発して、まずは昼食会場の奈良パークホテルへとバスは向かいますが、出発するやいなや上田さんの名解説が始まりました。この名解説は、帰りのバスの中でもますます調子があがり、参加頂いた皆さんから感嘆の声が上がりました。資料を見るわけでもなく車窓にもとどまらず、奈良の建築物について事細かに説明いただきました。(バスの運転手さんからスカウトされたとか・・・)

昼食を終えてまずは松柏美術館です。先に隣接する村野藤吾氏設計による旧佐伯邸の見学をし、そのあと美術館を見学する順路でしたが、旧佐伯邸では皆さんとても熱心で時間が少し短かったかなと感じました。

次の見学場所は、吉田五十八氏設計による大和文華館です。城郭をイメージさせる海鼠壁の外観の前で集合写真を撮った後、自然光を取り入れた展示空間と特別に許可を頂いた講堂の見学をしました。

また、こちらの庭園は四季折々の草花が楽しめる自然苑で、季節がよければ散策もしていただけたかと思いますが、暑さもあり皆さんは少しお疲れのようでした。バスの中で上田さんの解説に耳を傾けながらの帰路でしたが、古都奈良の違う一面を感じて頂き、再度奈良に足をはこんで下さることを願いながらお見送りをさせていただきました。



(大和文華館にて)

大人の修学旅行(6コース)「庭園巡り」

江木 博子

奈良公園周辺の庭園を中心に徒歩で巡る全行程2.5Kmのエクスカーションでした。

国際フォーラム薨を出発し、三輪そうめんと柿の葉寿司のはいった昼食を済ませ、東大寺南大門へ。ここが



薨からスタート

依水園から見えることを予告して、東大寺ミュージアムから西塔跡を通り入江泰吉旧居へ行きました。崖下の庭の蟬の抜け穴をみながら涼みました。

真夏の奈良の昼下がりには、屋外は大丈夫かなと秘かに心配しておりました。しかし、吉城園、依水園では緑陰を歩いて涼しい風を感じ、川や滝を模した流れの水音に癒されました。移動中に、暑いとはいえコンクリートやアスファルトの少ない空間が多いので、暑さの質が少し違うかもといいながら歩きました。(当日：晴天 気温31.8℃湿度59%)

最後は国宝館。紫外線を遮断し暗い要静寂の館内



(依水園 三秀亭にて)

庭園内の木々から涼風がそよびできました

本で見ていたものと実物は違う・・・迫力・・・なんだか癒される・・・という感嘆の声もいただきました。(奈良市民として素直にうれしいです。)

狭いエリアでも、こんなにも見るものが多いー奈良ーは、歴史文化資産の多い街だったのだと再認識しました。施設間の移動中も休む間もなく適切な解説をつづけられる藤山さんに感謝して、私はサポートしていることを忘れ修学旅行していました。暑い中皆さまお疲れ様でした！またゆっくりじっくり奈良に足をお運びいただけますように。

大人の修学旅行(7コース)

「宗教都市とランドスケープ」 渡邊 有佳子

エクスカーション7コースは、「宗教都市とランドスケープ」というテーマで、大神神社→狭井神社→天理参考館→石上神宮を、総勢14名で巡りました。国際フォーラム薨を出発し、車窓から奈良の名所や風景を眺めながら約1時間ほどバスに揺られ桜井へ。三輪そうめん山本で昼食をいただいた後、大神神社へ向かいました。大鳥居をくぐり、砂利道の参道を進み、桧皮葺の拝殿の前で各々手を合わせました。拝殿の前で、全員で記念撮影。素敵な笑顔の記念写真が撮れました。



そのまま「くすり道」と呼ばれる参道を登り、薬の神様を祭る狭井神社へ。くすり道には薬草が多く植えられ、名称と薬効が札に書いてありました。拝殿は、桧皮が葺きかえられたばかりのようでした。

少しバスで移動し、天理参考館へ。古代遺跡や世界各地の民族資料などの収蔵品をゆっくりと見学しました。天理教教会本部の工事の際の出土品も展示されており、皆さん熱心に見学されていました。

続いて向かった最古の神宮と言われる石上神宮では、放し飼いにされた鶏に出迎えられ、桧皮葺きの屋根と朱塗りの柱のコントラストが美しい拝殿を見ることが出来ました。ここでも各々手を合わせ、お守りなどを購入しました。

各地から参加して下さった女性建築士の皆さんに、奈良で古代より続く信仰に基づいた建築に触れてもらうことができました。どこも見ごたえがあり、参加者の皆さんとも交流ができ、楽しく充実した時間を過ごすことが出来ました。

大人の修学旅行(9 コース)「斑鳩の里めぐり」

山下 宣子

9 コースの行き先は斑鳩の里で、法起寺の三重塔・法輪寺の三重塔を車窓から眺め、その後、布穀菌でランチをしてから、中宮寺の参拝、法隆寺の参拝をメインとする旅でした。ところが、国際フォーラム～法起寺までの間の50分間は、バスの車窓から名所のガイドもしてもらおうのよ！と聞いた時には、頭がガンと鳴りました。いつも一夜漬けの私は、間際になってかなり焦り、女性委員会会議の練習ではしどろもどろで、どうなることかと思いましたが、何とか当日を迎えて無事に出発できました。少々お聞き苦しい点もあったかもしれませんが、私なりにうまくこなせたのでは？……と思っています。

平坦でのどかな斑鳩の里にそびえるそれぞれの三重塔は、自然風景にとけ込みまるで絵画の様でした。

ランチをさせて頂いた布穀菌も沢山見どころがあり、インテリア家具は木の温もりで一杯でした。



布穀菌正門



法起寺三重塔



法輪寺三重塔

中宮寺からは、「斑鳩の里観光ボランティアの会」の方々がガイドをして下さいました。その説明は引き込まれるようなお話を交えたもので、時間の許す限り聞いていたいと思う程のガイドで、とても素晴らしいものでした。ですが、あまりの暑さだったので、もっといい気候であったならなあと思いました。

法隆寺は、金剛力士像が安置されている中門の解体修復工事が始まっていたので、写真スポットの南大門の階段からは鉄パイプの足場が見え、いささかミスマッチだったのが残念な点でした。何はともあれ何とか終わり、私達を助けて下さった大阪建築士会の方とは終わるなり打ち上げの一杯で喉を潤しました。9コース参加の皆様、いい思い出に感謝です。本当に有難うございました。

大人の修学旅行(10 コース)片桐石州と天平の薨

梶谷 治美

7月23日は朝から暑い日になりました。

10コースは、昼食後、慈光院から唐招提寺まで22名の女性を乗せて路線バスで巡るコースです。その前に食事場所までの間、説明場所がたくさんあり、バスの運転手さんがスピードを緩めてくださって何とかなりました。昼食は冷いそうめん、柿の葉寿司、シメは奈良漬け入りシャーベットを頂きました。バスを降りて、慈光院の山門までの坂道を暑い陽射しを浴びながら登り、山門を入ると水を打った石畳が迎え、涼しく感じられました。大庭を拝見し、ご住職のお話を聞きながらお抹茶をいただき、拝観。合流された三井所会長と洲上会長を交え、集合写真を撮りました。ご参加された方からは、「こんな場所には、なかなか来れない。」「見過ごしてしまいそうだ。」「来れて良かった。」「とおっしゃっていただきました。唐招提寺に向う車中で、現地で案内していただく松井 正和さんの経歴と、唐招提寺の説明をしました。まずは、境内の新宝蔵に。ここには金堂の鴟尾が保存されています。(鴟尾の割れ傷が雨漏りの原因になっていると想われたが、何事もなかった)金堂では、列柱の間隔の違い、上下の太さは長い間に風雨にさらされ収縮し、エンタシス状に見えます。調査、解体修理の為に、内陣の本尊盧遮那仏等を今回初めて搬出されたようです。調査により軒の垂下を緩和し、奈良時代の屋根の高さ、小屋組の推定復元が可能になり、金物を外したら鮮やかな彩色の文様があらわれたとのこと。修理は300年先まで見据えて、現在の技術で最高のものを用いて行われています。最後に心のなごむお気に入りはお聞きすると、「金堂の軒先の角で頑張ってる屋根を支えてくれている餓鬼です。」「とおっしゃって角を指されました。行程を終えて帰路につきました。車中での挨拶が終わると、皆様から拍手をいただきました。無事に終了できたこと感謝致します。



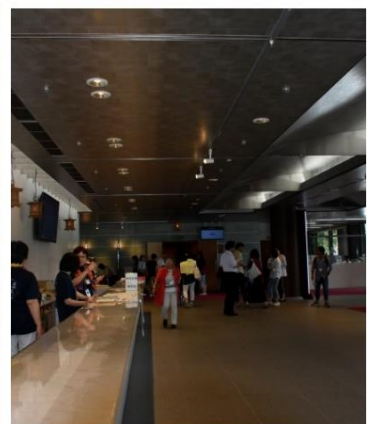


準備部会



1日目





今後の事業予定

- 10月 9日(日)
一級建築士試験(設計製図)
- 10月 22日(土)
建築士全国大会(大分大会)
- 10月 26日(水)
住宅相談会(奈良県建築士会館)
- 11月 6日(日)
橿原支部 30 周年記念式典
- 11月 16日(水)
住宅相談会(奈良県建築士会館)
- 12月 1日(木)
二級・木造建築士試験合格発表(予定)
- 12月 6日(火)
第3期定期講習(奈良県産業会館)
- 12月 15日(木)
一級建築士試験合格発表(予定)
- 12月 21日(水)
住宅無料相談会(奈良県建築士会館)
- 12月 29日(木)～1月3日(火)
年末年始休業

*** 編集後記 ****

今回よりフープの編集をすることになりました、奥 宏美です。よろしくお願いいたします。
第1回目の編集が、夏・秋号合併の特別号ということでも緊張いたしました。

皆さまの原稿を拝読させていただき、昨年6月の準備部会からの長いようで短かった約1年が、一気に蘇りました。各班の活動、Tシャツの作製、エキスカレーションの下見と説明練習・・・、ちょっと思い出し笑いをしてしまいました。いろんなことがありましたが、今回の開催に向けた皆さまの熱意は、一致していたと改めて感じました。「全建女 奈良」が大成功に終わり、本当にうれしく思います。皆さまにとっても、今年はいろんな意味で「アツイ」夏になったのではないのでしょうか。

編集に関しましては、ご多忙中にもかかわらず、ご協力をいただき誠にありがとうございました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

「全建女 奈良」開催に向けて取り組んでこられた様子や当日の様子が、うまくお伝えできるよう編集に務めました、いかがでしょう。

これからも、女性委員会の皆さまの活動を広く発信して行けますようがんばりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

(奥 宏美)

